

第 26 回 愛媛形成外科研修会
抄 録 集

日 時 平成 22 年 12 月 11 日 (土) 17 時 30 分～
場 所 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
3 階 研修室
松山市南梅本町甲 160 TEL : 089-999-1111)
当番世話人 石川病院
形成外科 田中 伸二

第 26 回 愛媛形成外科研修会

研修会

1. 受付は当日 17 時 00 分より会場で行います。
※お車でお越しの方は、誠に申し訳ございませんが一律 100 円の駐車料金がかかります。
※会場前通路の改修に伴い、エレベーター降りて向かって左側通路は封鎖されております。右側通路より会場へお越してください。
2. 参加費は 2000 円を申し受けます。
3. 演者で、まだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. 討論時間は、一題あたり 5 分を予定しております。
5. 発表形式は Windows Power Point 2003 による PC プレゼンテーションをお願いいたします。(当日は USB メモリーあるいは PC 本体を持参して下さい。)

研修会総会

19 時 00 分から同会場にて行います。

連絡先

〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町 732-1

石川病院 形成外科 田中 伸二

E-mail: tanaka.shinji@ishikawa-hsp.com

TEL: 0896-58-2222

会歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第1回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成10年7月4日	15名
第2回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成10年12月5日	17名
第3回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成11年6月19日	20名
第4回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成11年11月27日	19名
第5回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成12年6月24日	17名
第6回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成12年12月9日	20名
第7回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年6月23日	23名
第8回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年12月8日	23名
第9回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成14年6月8日	27名
第10回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成14年12月14日	27名
第11回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成15年6月28日	25名
第12回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成15年12月13日	25名
第13回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年6月26日	26名
第14回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年12月4日	29名
第15回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成17年6月18日	31名
第16回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成17年12月10日	35名
第17回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成18年6月24日	31名
第18回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成18年12月9日	26名
第19回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年6月16日	37名
第20回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年12月15日	30名
第21回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成20年6月14日	30名
第22回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成20年12月6日	30名
第23回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年6月27日	32名
第24回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年12月12日	28名
第25回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成22年6月19日	34名

第26回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成22年12月11日	名
------	----------------------	-----------------	-------------	---

独立行政法人 国立病院機構

四国がんセンター

愛媛県松山市南梅本町甲 160

(TEL : 089 - 999 - 1111)

最寄り駅：伊予鉄横河原線 梅本駅下車 徒歩 5分

伊予鉄横河原線 牛湍団地前駅下車 徒歩 6分



Section 1 (17:30~18:15)

座長：愛媛県立南宇和病院 皮膚科 森戸 浩明

1. 大腿部皮下腫瘍として発見された Manson 孤虫症の 1 例

愛媛労災病院 形成外科

○加藤嘉秀 黒住 望

(3 分)

症例は 48 歳、女性。初診の 1 ヶ月程前に左大腿部に腫瘍がある事を自覚。摘出術を行い、病理検査の結果、寄生虫疾患である Manson 孤虫症との診断を受けた。比較的稀な 1 例を経験したので報告する。

2. 臍部に生じた子宮内膜症の 1 例

愛媛県立中央病院 形成外科

○石野憲太郎 小林一夫 中川浩志 徳永和代 尾崎絵美 前信友梨

(5 分)

症例は 38 歳女性。臍部に疼痛を伴う皮膚腫瘍が出現し、近医で抗生剤内服加療を受け 1 週間で軽快。その後も臍部に同様の腫瘍が生理にほぼ一致して出現・軽快を繰り返すため近医にて腹部エコーを施行。皮下に約 1cm の腫瘍あり、外科的治療目的に当科を紹介受診した。患者は臍の形態維持を希望したため腫瘍切除及び梶川法による臍形成術を施行。腫瘍は病理検査にて子宮内膜症と診断された。以後再発なく臍部の形態維持も良好な経過を得たので報告する。

3. 耳前部に発生した Atypical Fibroxanthoma の 1 例

松山赤十字病院 形成外科

○戸田皓大

(5 分)

88 歳男性。数ヶ月前より増大し、容易に出血する耳前部の紅色腫瘍を主訴に当科外来を受診。皮膚生検行ったところ、Atypical Fibroxanthoma (皮膚異型線維黄色腫) が疑われたため、局所麻酔下に切除術を施行した。今回われわれが経験した Atypical Fibroxanthoma の 1 例について若干の文献的考察を加え報告する。

4. 巨大石灰化上皮腫の1例

愛媛大学医学部附属病院 皮膚科形成外科診療班 1)

済生会今治病院 形成外科 2)

○戸澤麻美 1) 森 秀樹 1) 山下昌宏 2)

(3分)

症例は30歳男性。10年前から右上腕に血豆様の結節ができ、除去と再発を繰り返し、徐々に拡大、2年前から腫瘤より排膿を伴うようになった。初診時15×10×5cm大の有茎性腫瘤とCTでは腋窩に腫大リンパ節を認めた。悪性を疑い2回生検したが、腫瘍細胞が検出されず、局麻下全切除生検、人工真皮移植を行った。組織は石灰化上皮腫であった。若干の文献的考察を加えて報告する。

5. 左臀部巨大皮下腫瘤の1例

愛媛大学医学部附属病院 皮膚科形成外科診療班 1)

済生会今治病院 形成外科 2)

○見崎麻由 1) 中岡啓喜 1) 森 秀樹 1) 戸澤麻美 1) 山下昌宏 2)

(5分)

68歳男性。1年半前から左臀部の皮下腫瘤を自覚していた。徐々に増大したため近医より当科紹介され受診した。MRIにて仙骨部腹腔側へ回り込み、直腸、肛門を圧排する長径13cm大の巨大腫瘤を認め、奇形腫を疑った。摘出術後4ヶ月の現在、再発を認めおらず、直腸、肛門機能の障害も認めていない。

Section 2 (18:15~19:00)

座長：住友別子病院 形成外科 渡邊 敏之先生

6. 当科で行っているレーザー治療 最近3年間の統計

愛媛大学医学部附属病院 皮膚科形成外科診療班

○森 秀樹 中岡啓喜 戸澤麻美 見崎麻由

(5分)

2008年1月から2010年11月までに当科でレーザー治療を行った症例は述べ1403例であった。これらにつき、対象疾患、使用レーザーなどにつき検討したので報告する。

7. 鼻中隔脱臼骨折の1例

宮本形成外科

○青木恵美 宮本義洋 宮本博子 妹尾貴矢

(5分)

16歳、男性。硬球があたり受傷。初回手術では鼻中隔血腫ドレナージを行い、突出した鼻中隔軟骨を一部切除した。初回手術の4ヶ月後に再度鼻骨骨折により鼻閉悪化したため、彎曲した鼻中隔を切除しシリコンブロックによる内固定を行った。当院での固定の工夫や全身麻酔下の整復に対する見解を述べる。

8. 眼瞼痙攣に対し外科的治療を施行した2症例

愛媛県立中央病院 形成外科

○徳永和代 小林一夫 中川浩志 尾崎絵美 前信友梨 石野憲太郎

(5分)

ボツリヌス毒素治療に抵抗を示した眼瞼痙攣の2症例を経験した。症例1は28歳男性、開瞼機能が良好なことから、眼輪筋を含む皮膚切除を施行した。薬物療法を併用し、現在も経過は良好である。症例2は70歳女性、松尾法に準じた腱膜固定法と眼輪筋を含む余剰皮膚切除、皺眉筋の分断術を施行した。薬物療法を併用しているが、現在も開瞼困難で生活に支障を生じている。それぞれの症例の経過と問題点を、考察を加えて報告する。

9. 遊離組織移植における血管吻合、皮弁縫合の順序

四国がんセンター 形成外科

○鈴木良典 河村 進

(5分)

遊離組織移植による再建術の際、血管吻合と皮弁縫合のどちらを先に行うかは、施設ごとの方針で決まる。当科では遊離皮弁、遊離空腸いずれにおいても血管吻合を先に行うこととしている。当科における再建時のポイントを挙げて、血管吻合を先に行うことの利点、注意点について考察を加える。

10. 前腕腱神経損傷における癒着防止のための有茎脂肪弁の有用性

住友別子病院 形成外科

○渡邊敏之 植村亨裕

(5分)

前腕の腱と神経の合併損傷において、術後の腱と神経の癒着はリハビリにおいて痛みの原因となり、可動域制限などから著しい機能低下を生じることがある。

神経剥離後に有茎脂肪弁を使用する報告は散見されることから、腱と神経を合併損傷した症例で、有茎脂肪弁を腱と神経の間に挿入することにより、リハビリの際の痛みが軽減され、良好な機能回復が得られた2症例を経験したので報告する。

愛媛形成外科研修会総会 (19:00~)

1. 年間事業報告、次年度年間事業計画

2. 県医師会形成外科医会について

大塚会長より報告事項

県医師会形成外科医会のご案内と研修会

3. 次回研修会の日程

4. その他